

令和 6 年度 西小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな創造力をもち、思いやりのある心情、たくましい気力と体力、自主的精神に満ちた実践力のある児童を育成する。

・よく考え、学ぶ子供 ・思いやりのある子供 ・心身を鍛える子供

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるための課題意識を持ち、その解決を図るために、知識・技能を確実に身に付け、活用して、自分の考えを持ち、他者の意見と比べながらよりよく考える、コミュニケーション力のある児童の育成をめざした学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

教材やＩＣＴ等を効果的に活用しながら、「宇都宮モデル」を軸として、授業の展開・改善を図る。

- ① 「宇都宮モデル」（「はっきり」、「じっくり」、「すっきり」）の各過程の指導の質的向上を図る。
- ② 単元や題材等の指導と評価の計画に、学習を見通し、計画を立てる場面、学習を振り返る場面等を設定した上で、児童が課題の解決に向けて粘り強く取り組みながら、自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整していくこと（主体的に学習に取り組む態度を育むこと）ができるよう、指導・支援を行う。
- ③ 児童の発達段階を踏まえながら、学習内容や学習活動に応じて 1 人 1 台端末を効果的に活用し、授業の質的向上を図る。
- ④ 児童の発達の特性や理解度に応じた効果的な学習が展開されるよう、課題の提示や展開の仕方などに、特別支援教育の視点を取り入れ、個別最適化指導の充実を図る。

(2) 他者への思いやり、基本的生活習慣、規範意識、自己肯定感の育成

- ① 宮っ子心の教育、人権教育、体験活動、読書活動、特別活動、児童生徒指導の充実により、他者への思いやりや規範意識を育み、いじめを生まない指導・支援に努める。
- ② 魅力にあふれ安心して過ごせる学校づくりにより不登校の予防に努めるとともに、組織的な対応による支援の充実を図る。
- ③ 児童と向き合う時間を確保し、児童個々のありのままの姿を受け止めるよう努めるとともに、役割を分担し協力して取り組む機会や異年齢交流など年少者を世話する機会等の充実及び、様々な行事や体験活動など達成感や成功体験を得させる場の充実を図ることにより、自己肯定感を育む。
- ④ 「あいさつ」「返事」「時間」「生活リズム」「言葉遣い」を中心に、基本的な生活習慣を育む。

(3) 体力の向上と健康の保持増進

- ① 宇都宮市学校健康教育推進計画を踏まえ、「体力の向上」、「保健教育」、「食育」、「安全教育」の 4 つの教育を一体的に捉えた、元気アップ教育の推進を図る。
- ② 教科体育の充実を図り、基礎的な体力と運動やスポーツに親しむ態度を育成するとともに、外遊びの奨励、「うつつのみや元気っ子チャレンジ」の実施など、教育活動全体を通して、運動機会を創出する。
- ③ 食育の推進を通して、望ましい食習慣を形成するとともに、感謝する心の醸成を図る。

(4) 教職員の資質能力の向上

- ① 向上心をもって、根拠を基に主体的に考え、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を高めるとともに、学校作りのチームの一員として、自己の持ち味を生かしながら、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む専門的な力を身に着ける。
- ② 授業研究会を軸とした校内研修の充実により、相互に高め合い、学びあう協働的な同僚性を構築し、教職員の実践的指導力と専門性を向上させる。なお、養護教諭、学校栄養士、学校図書館司書との T T による授業を積極的に展開し、専門性を生かす方策を研究する。
- ③ 勤務時間を意識するとともに業務改善を推進することにより、ワークライフバランスのとれた働き方の実現を図り、教職員一人一人が、心身共に健康で、能力を最大限に発揮できるようにする。

(5) 地域とともにある学校づくりの推進

- ① 学校、家庭、地域が目標やビジョンを共有し、相互に連携・協働することによって、子どもたちの豊かな学びと成長を実現する。

○② 学校園における小中の連携と、義務教育 9 年間を一体とした指導によって、学校生活へ円滑に適応させ、学力を保障

する。

- ③ 学校及び教師が担う業務の明確化・適正化に努め、学校、家庭、地域が適切な役割分担のもと、相互に連携・協力を推進する。

【一条地域学校園教育ビジョン】

「基本をしっかり身に付け、地域に生きる子どもを育む一条地域学校園」

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに学習指導要領、宇都宮市立小中学校の教育課程及びその編製の基準に従い、教育課程を編成する。
- (2) うつのみや学校マネジメントシステム、学習内容定着度調査等の各種調査結果やデータを効果的に活用し、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、特色をもった教育課程を編成する。
- (3) 学習の基盤となる資質・能力やSDGs等に係る現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成していくことができるよう、問題解決的な学習の充実を図るとともに、教科等横断的な視点で、各教科等の関連付けを図りながら教育課程の編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
よりよい学校生活を築くために主体的に考え、課題解決を図ろうとする教職員及び児童の育成
- (2) 学習指導
「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした指導方法の工夫
～「思考力と表現力の育成」を目指した授業の実践を通して～
- (3) 児童生徒指導
規範意識をもち、自他を大切にすることができる児童の育成
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
基礎体力の向上と望ましい食習慣の形成をめざした指導の充実

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所には下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1）確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 児童の肯定的回答 ⇒85%以上	・確かな学力を育むため、知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力、及び学びに向かう力等を養うなどして、学習指導を充実させる。 ① 「宇都宮モデル」を活用した授業改善を推進する。 ※「宇都宮モデル」とは、学習課題を「はっきり」、課題への取り組みを「じっくり」、まとめを「すっきり」という授業のスタイルのこと ② 「西小よい子の学習の約束」を活用し、基本的な学習態度の指導を徹底するとともに、友達と話し合ったり、友達と情報を集めるなど、児童が積極的に自分の考えを発言できる雰囲気をつくる。 ③ 家庭学習の習慣化に向け、家庭学習強化週間の設定を行う。		【達成状況】 【次年度の方針】

1-(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A2 児童は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】 「私は、誰に対しても、思い やりの心をもって優しく接し ている。」 児童の肯定的回答 ⇒85%以上	・思いやりの心を育てるため、「宮っ 子心の教育」を充実させるなどして、 豊かな心を育む教育を推進する。 ① 児童のよさや努力等を積極的に 認め励まし、学校学級全体に広め たり、家庭に知らせたりする。 ② 他者を意識した言動や行動の大切 さについて、学級活動の時間や 様々な場面において全職員で指導 にあたっていく。 ③ 「親切・思いやり」「正直・誠実」 について多面的・多角的に考え、 話し合う「道徳科」の授業づくり に取り組む。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A3 児童は、目標に向かっ てあきらめずに、粘り強 く取り組んでいる。 【数値指標】 「児童は、目標に向かってあ きらめずに、粘り強く取り組 んでいる。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上	・やり遂げる達成感を味わわせるた め、学校行事や各教科の指導の工夫に 取り組み、失敗や困難を乗り越えて挑 戦し続けるたくましさを涵養する。 ① 「挑戦する」「がまんする」「あき らめない」について学校行事等、 様々な教育活動を通して体験し 活動を振り返り達成できた充実 感を感じられるよう指導する。 ② 各教科の学習において、既習事項 を用いて学べる学習課題や、段階 的に発展させることができる課 題に取り組ませる授業を実践し、 児童が達成感を得ることができ るようにする。 ③ 児童が行事・教科等で目標をも ち、学習後には振り返りをするこ とで、次の活動の目標につなげる ようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上	・心身ともに健康で、たくましい児童を育てるため、「元気アップ教育」を充実させるなどして、健康で安全な生活を実現する力を育む教育を推進する。 ※「元気アップ教育」とは、「体力向上」「保健教育」「食育」「安全教育」について小中9年間を通して取り組む教育活動のこと。 ① 教科体育における運動量の確保や元気っ子チャレンジへの参加やがんばりカードの積極的活用を通して体力を向上させる。 ② 養護教諭や学校栄養士と連携した授業に取り組み、健康への関心を高める。 ③ 運動委員会の企画等、児童主体の活動を活性化する。 ④ 地域や保護者と連携し、避難訓練や地域安全マップの作成をはじめ、学校教育全体を通して、危険を予測し、自分の命は自分で守ることの大切さについて指導する。	【達成状況】 【次年度の方針】
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 「児童は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上	自分のよさや頑張りに気付かせ、自己肯定感や自己有用感を高めるようにするため、「宮・未来キャリア教育」の充実を図るなどして、将来への希望と協働する力を育む。 ① 係活動や当番活動は、生活をよりよくしていくために大切であることを意識して主体的に取り組めるようにし、自己有用感を感じられる活動にする。 ② 特別活動において、一人一人の持ち味を生かした役割分担を行う。 ③ 総合的な学習の時間・生活科・特別活動などを中心に、活動の振り返りを確実にを行い、自分のよさや成長に気付かせる指導を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 「私は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 児童の肯定的回答 ⇒80%以上	・英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるため、英語教育の充実を図るなどして、「グローバル社会」に対応する教育を推進する。 ① ALTや1人1台端末の音声読み上げ機能を活用し、ネイティブの英語に触れる機会を十分に確保する。 ② 外国語の授業では、英語によるやりとりを中心とした授業を展開し、英語で伝え合う楽しさを味わわせる。	【達成状況】 【次年度の方針】

	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 児童の肯定的回答 ⇒80%以上	・宇都宮の伝統や文化に愛情と誇りをもてるようにするため、郷土への愛情を育む学習の充実を図るなどして、郷土愛を醸成する教育を推進する。 ① 社会科や総合的な学習の時間における郷土の学習や「地域が先生」における「ふくべ細工」「百人一首」等の学習活動の充実を図る。 ② 学校便りや学年便り等で宇都宮学への取組について発信する。 ③ 「ベストフェスタ in 西」や「西地区大運動会」などにおける地域との関わりを通して、地域の人々への愛情や感謝の気持ちを育む。	【達成状況】 【次年度の方針】
2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 「私は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 児童の肯定的回答 ⇒80%以上	・情報活用能力を身に付けさせるため、情報活用能力を育成する教育の充実を図るなどして、「情報化社会」に対応する教育を推進する。 ① 国語や道徳、学級活動における情報モラル教育を確実に実施する。 ② 児童が必要に応じて ICT 機器や図書資料、新聞などを取捨選択し、そこから正しい情報が得られるように指導する。	【達成状況】 【次年度の方針】
2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「私は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 児童の肯定的回答 ⇒80%以上	・「持続可能な社会」について関心を持てるようにするため、児童の発達段階に応じ、各教科の学習を通して、「持続可能な社会」に対応する教育を推進する。 ① 総合的な学習の時間において、環境や国際理解、食をテーマとして地域の学習素材を活かし指導するとともに、「持続可能な社会」に関する各教科の単元との関連も図りながら教科横断的な学習を展開する。 ② 節水や節電、ごみの分別など、日常生活において環境問題を意識した教育活動を実践する。	【達成状況】 【次年度の方針】

3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上	・特別な支援を必要とする児童の様々な教育的ニーズに対応するため、実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫するなどして、適切な指導及び必要な支援を行う。 ① 特別な支援を必要とする児童にとっても、わかりやすい指示や教材を工夫して授業を展開する。 ② かがやきルーム指導員と学級担任が連携し、かがやきルームにおける指導を充実させるとともに、年度途中にも見直しを行い、終了や入級を柔軟に実施する。 ③ 教育支援委員会やケース会議を開き、共通理解のもと指導にあたり、必要な場合は関係諸機関との連携を図り指導する。 ④ 特別支援教育の研修を充実させ、児童に適切な支援を行えるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 保護者の肯定的回答 ⇒85%以上	・「西小いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ根絶に向け、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、組織的な対応を行うなどして、学校全体でいじめ防止の取組を実践する。 ① 意識の高揚を図るため、いじめ根絶集会の実施や「ふわふわ・ちくちく言葉」等の日常的な言葉の指導、未然防止につながるスローガンや標語の作成・掲示を日常的に行う。(未然防止) ② 「親子で考える道徳」の実践を通して、道徳的価値について家庭と連携して指導していく。 ③ 学校生活アンケートや Q-U 調査結果をもとにした教育相談を実施するとともに個に応じた指導を実施する。(早期発見・早期対応) ④ 同僚や管理職への「報・連・相」、「いじめ等対策委員会」の開催などを確実にし、情報を共有して適切に対応する。(組織的な対応) ⑤ いじめ根絶に向けた取り組みを児童指導便りや HP、学級懇談会を通じて家庭や地域に情報発信し、連携して児童を見守る体制の構築していく。 ⑥ 毎日の学級活動を通して児童の自己肯定感や自己有用感を高めたり、道徳の授業を通して道徳性を高めたりすることで、いじめのない居心地のよい学級づくりを行う。	【達成状況】 【次年度の方針】

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 「教職員は、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っている。」 保護者の肯定的回答 ⇒80%以上	・不登校の未然防止、早期発見、早期対応、組織的な対応に努める。 ① どの児童にとっても自分の居場所となる温かい雰囲気学の級経営を行う。(未然防止) ② 担任は児童・保護者に積極的にかかわり、普段からの信頼関係づくりに取り組む。(未然防止・早期発見) ③ 児童指導連絡会、欠席状況共有シートや保健室への来室状況などにより児童の状況を把握し、早期に支援の検討を行う。(早期対応・組織的対応)	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実 3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上	・児童が自己のよさを生かせるよう、創意工夫した教育活動に取り組む。 ① 児童会活動を工夫することで、楽しく異年齢交流ができるようにする。 ② 児童の思いや願いを実現できるような学級活動を工夫し、全員が学級への所属意識を持てるようにする。 ③ 個性を認め合う受容的な学級づくりを行う。 ④ 教職員は、児童と共に考えたり遊んだりするなど、児童と向き合う時間を大切に、信頼関係を構築する。 ⑤ 朝わくの回数を増やし、楽しく学校生活をスタートできるようにする。 ⑥ 特別支援教育の研修を充実させる。 ⑦ 人権教育を充実させる。 ⑧ 各種便りや学校ホームページなどを活用し、学校の様子を積極的に発信する。	【達成状況】 【次年度の方針】

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上」	・教職員の授業力を高めるため、校内研修を充実させるなどして、実践的指導力と専門性を向上させる。 ① 「宇都宮モデル」を活用した一人一授業の実施を通して、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を視点とした授業改善に取り組むとともに、学び合いを重視した授業実践の研究を行う。 ② 授業の質の向上のために、教職員同士授業参観と意見交換の機会を設ける。 ③ 小テストを計画的に実施し基礎基本を確実に定着させる。 ④ 習熟度学習やチームティーチング等、個に応じた学習支援を充実させる。	【達成状況】 【次年度の方針】
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上	・学校の組織力を強化し、児童への指導・支援の充実を図るため、多様なスタッフの専門性を発揮できるようにする。 ① 養護教諭や学校図書館司書、学校栄養士業務の専門性を生かして、学年の系統性を考慮した授業を計画的に実施する。 ② インターネットバンキングや学校徴収金システム等の活用により業務の負担軽減を行う。 ③ SCM を中心として、スクールカウンセラー等と連携することで、児童指導の充実に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 教職員の肯定的回答 ⇒85%以上	・教職員の健康と安全を確保し、質の高い教育活動を維持していくため、勤務時間に対する意識改革や具体的な業務軽減策の実施などを通して、働き方改革を推進する。 ① 毎月、リフレッシュデーを設定するとともに、教職員で声を掛け合い、定時に退勤する雰囲気を作る。 ② 学級事務支援スタッフや担任以外の教職員と担任が連携し、学級事務の負担軽減につなげる。 ③ 教材研究等を行うための放課後の時間を確保するために、業務の効率化について研修で意見を出し合い改善を図る。時間を厳守して生活にメリハリをつける。 ④ 会議や研修の終了時刻を、プレート等で提示し、意識する。	【達成状況】 【次年度の方針】

5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 「学校は、児童生徒や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上	・児童の学校生活適応と学力保障を目指し、小中教職員の緊密な連携に基づく指導を充実させるなどして、地域学校園を生かした学校運営を推進する。 ① <u>地域学校園あいさつ運動、乗り入れ授業、お弁当の日、クリーンアップ活動、西地区大運動会で交流を進める。</u> ② 教職員間の交流を図るため、小中一貫の日を設け、研修会や会議等を実施する。	【達成状況】 【次年度の方針】
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 地域住民の肯定的回答 ⇒80%以上	・家庭・地域とのつながりを強化できるように、地域とのつながりを深めながら、地域の教育資源を有効に活用できる体制づくりを促進するなどして、学校運営を行う。 ① 各種便りや学校ホームページなどを活用し、学校の様子を積極的に発信する。 ② 学習支援や環境整備、児童の健全育成・安全確保などについて、「西小魅力ある学校づくり地域協議会」や地域の諸団体との連携を強化する。 ③ 企業等の出前授業を有効に取り入れ、教育活動の充実を図る。 ④ 「地域が先生」や「ふれあい交流」などの授業を推進する。	【達成状況】 【次年度の方針】
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 教職員の肯定的回答 ⇒90%以上	・児童及び学校を利用する全ての人々が安全に過ごせるように、施設・設備の定期的な安全点検の実施などを通して、教育環境を整備する。 ① 月1回安全点検を確実に実施し、修繕や改善が必要な箇所については、速やかに対応する。 ② 児童が多く使う箇所については、指導者が日常的に点検を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上	・教職員が必要に応じてデジタル教科書やデジタル教材等を活用することができるよう、環境を整備する。 ① クラウド上で教材等を共有したり、ブラウザアプリを効果的に活用したりして業務改善に努める。 ② ICT支援員と連携を図り、デジタル化できる教材や校務資料の作成を推進し、活用する。	【達成状況】 【次年度の方針】

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 「児童（生徒）は、時と場に応じたあいさつをしている。」 教職員肯定的回答 ⇒80%以上	・自分から進んで気持ちのよいあいさつができるようにするため、あいさつ運動を充実させるなどして、豊かな心を育む教育を推進する。 ① 児童会や各学年代表児童、一条中や PTA によるあいさつ運動を展開し、自分から進んで学校や地域の人への挨拶に取り組む実践を積ませる。 ② 学級での授業開始・終了時や特別教室での入退室時など、時と場面に応じたあいさつの指導を徹底する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 児童の肯定的回答 ⇒85%以上	・規範意識を育むため、児童指導及び「道徳科」の授業を充実させるなどして、豊かな心を育む教育を推進する。 ① 「西小よい子の一日」を意識して生活できるよう指導するとともに、自分の生活を振り返る機会を設定し、定着を図る。また、校内のきまりに関して柔軟に見直しを検討する。 ② 児童会や委員会が主体となり、生活のきまりについて啓発する場を設定する。 ③ 年度初めに年間を通した生活のきまりやマナーを設定し、時期に応じて強化項目を決め、校内巡回指導をしながら定着を図る。学校生活における指導の方向性について全教職員で徹底を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B 3 児童は、異年齢の友達と遊んだり、年少者をいたわりながら活動したりしている。 【数値指標】 「私は、ほかの学年の友達と仲よく遊んだり、協力して活動したりしている。」 児童の肯定的回答 ⇒85%以上	・他者への思いやりの心や自己肯定感を育むため、縦割り班による活動を充実させて、学年や立場に応じた態度で活動できるようにする。 ① 縦割り班による清掃活動において、上級生が下級生の世話をしながら清掃に取り組めるよう指導する。 ② わくわくタイム、クラブ、委員会活動などの異学年交流の場で、学年に応じた役割を与え、異年齢の友達と積極的に交流が図れるよう指導する。	【達成状況】 【次年度の方針】

	B4 教職員は、児童一人一人のよさをほめて伸ばす指導を行っている。 【数値指標】 「先生方は、わたしのいいところを認め、ほめてくれる。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上	・自己肯定感を育むため、「ほめて伸ばす指導」を充実させるなどして、すべての児童が自信と誇りのもてる学校づくりを推進する。 ① 「多読賞」「きらり賞」「清掃頑張リカード」等を通じてよい行いを賞賛する。 ② 様々な学習の場面で具体的に児童をほめる機会を設け、全員の児童をほめるようにする。 ③ 児童の頑張りのよい行いを、家庭にも連絡する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B5 児童は、地域や学校のために積極的に働いている。 【数値目標】 「児童は地域や学校のために積極的に働いている。」 地域住民の肯定的回答 ⇒85%以上	・役割を果たす充実感や社会貢献への喜びなどを味わわせるため、学校・地域のためのボランティア活動を体験させるなどして、社会に参画し、協働する力を育む教育を推進する。 ① 「クリーンアップ in 西」の事前・事後指導を充実させ、校外ボランティア活動を体験させる。 ② 道徳や学級活動等の時間に働く意義について考えさせる。 ③ 地域や学校のために働く「子どもボランティア」活動を推進する。 ④ 総合的な学習の時間における地域単元「ひまわりプロジェクト」において、地域の一員として自分にできることを考え実践させていく。 ⑤ 自主的・自発的な委員会活動を推進し、働く楽しさを体験させる。	【達成状況】 【次年度の方針】

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。